

倒れている人をみたら

東京消防庁＜救急アドバイス＞＜倒れている人をみたら＞から引用にて作成

SAN - EI 香川サテライト 藤村謙二

応急手当の手順

1 肩を叩きながら声をかける



返事があれば安心することばをかける。

2 反応がなかったら



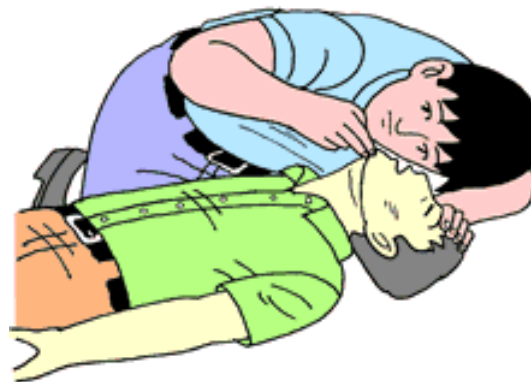
119番通報と、AED(自動体外式除細動器)を持ってくるよう依頼する。

3 呼吸をしやすいにする



あご先を引き上げ頭を後ろにそらせる

4 呼吸の有無を調べる



ほおを相手の口と鼻に近づける。吐く息がほおに感じるか、呼吸音が聞こえるか、また同時に胸と腹が動くかを10秒以内でみる

5 呼吸がなかったら、人工呼吸を2回行う「省略可能」

鼻をつまむ。
胸の上がりが見える程度の量を
2回息を吹き込む。
1回の吹き込み時間は1秒ほど



呼吸を観察した結果、呼吸が感じられても、胸・腹部の動きが不十分（不明瞭で小さい、あえぐような呼吸をしている等）な場合は人工呼吸を行います。

人工呼吸法

対象	割合	吹き込む量	吹き込む時間
成人（8歳以上）	2回	胸の上がりが見える程度の量	1.0秒
小児（1歳以上～8歳未満）			

6 人工呼吸が終わったらすぐに胸骨圧迫(心肺蘇生)



胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返して行います。

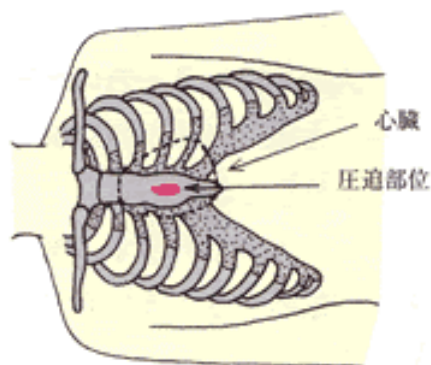
*** 心肺蘇生は、強く、速く、絶え間なく圧迫解除は胸がしっかり戻るまで！**

7 心肺蘇生法

(1) 成人(8歳以上)及び小児の心肺蘇生法

人工呼吸に抵抗感がある場合には
心肺蘇生のみ行う(時間のロス軽減)

心臓マッサージの圧迫位置



圧迫位置に手をおく



胸にあてる手の部分

手を重ね、垂直に30圧迫する(肘は曲げない)。
(改訂前は15回)圧迫後、人工呼吸を2回行い、この
操作をAEDが到着するまで繰り返す。



心臓マッサージ		心肺蘇生法
リズム及び深さ	位置	割合
・約100回/分 ・4～5cm(成人) ・胸の厚さの(小児) 1/3	胸の真中、左右の乳首の間を真上から重ねた両手で「強く、速く、絶え間なく」圧迫します。(小児は、両手または片手で)	30:2

8 AEDの到着



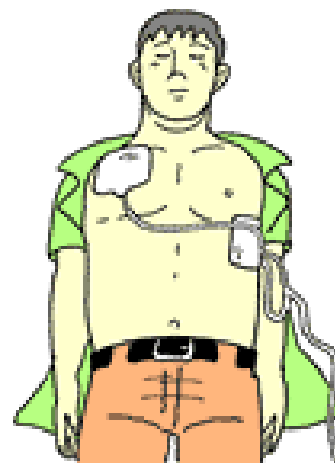
AEDは傷病者の肩の脇に置くと使いやすい。

9 AEDの電源を入れる



カバーを開けると自動的に電源が入ります。

10 電極パッドを胸に貼る



電極パッドの正しい位置(成人)

小児には、小児用電極パッドを貼ります。

電極パッドを貼る位置は、一枚は右胸上部の鎖骨の下に、もう一枚は左胸脇の下約5～8cmのあばら骨の上に、しっかりと密着させて貼り付けます。体が濡れていたらタオルで拭き取る。

11 電気ショックの必要性をAEDが解析判断する



傷病者に誰も触れていないことを確認します。
電極パッドを貼ると自動的に解析が始まります。音声の指示に従ってください。

12 除細動(電気ショック)を行う



心電図の解析結果から電気ショックが必要な場合は、自動的に充電が開始され、「通電が必要です」と音声で指示されます。

充電が終わり通電の準備が完了すると、「通電ボタンを押してください」と音声指示があり、通電ボタンが点滅します。

救助者は、誰も傷病者に触れていないことを確認し通電ボタンを押します。通電が行われると傷病者の体につっぱった動きがあります。

13 除細動を実施した後の対応

・心肺蘇生法の再開

・電気ショックが完了すると「ただちに心肺蘇生を開始してください」などの音声メッセージが流れますので、これに従い、胸骨圧迫30回、人工呼吸2回の組み合わせを続けます。

・心肺蘇生法を再開して2分間経ったら、音声メッセージに従い傷病者から離れます。

以後は、心電図の解析、電気ショック、心肺蘇生を、約2分間おきに繰り返します。

・AEDの機種によっては、連続して最大3回の電気ショックを行うものがありますので、AEDのメッセージに従って、電気ショックを行います。(AEDの指示に従います。)

・「通電は不要です」の指示が出た場合

・循環のサインがない場合:心臓は機能していません。心肺蘇生法を再開します。

・循環のサインがある場合:心臓が機能し始めました。呼吸状態を観察し、不十分な場合には人工呼吸を行います。正常な呼吸になれば、回復体位にします。

AEDを使用するときの注意事項

・1歳未満乳児小児には使用できません。(1歳以上8歳未満の小児には、小児用電極を使用)

・傷病者の胸が汗や水で濡れている場合は、乾いたタオル等で拭き取ります。

・ペースメーカー等が埋め込まれている場合は、でっぱりから3cm程度離してパッドを貼ります。

・パッドを貼る位置に貼り薬がある場合は、貼り薬をはがしてパッドを貼ります。

・ネックレスや貴金属がある場合、すぐに取り外せる場合は外します。

回復体位

十分な呼吸をしているけれど、意識がはっきりしていない傷病者を、仰向けにしていると、舌が喉に落ち込んで息ができなくなったり、吐いた物が喉に詰まって窒息する危険があります。

このため、体を横向きにして、空気の通り道を確保し、吐いた物が自然に流れるような姿勢をとらせます。

回復体位の手順

①



- 傷病者の肩と腰を持ち、手前に静かに引き起こします。

②



- 傷病者の両肘を曲げ、上になっている手を、顔の下に入れます。
- 頭を後ろに反らせ、顎を軽く突き出します。
- 口元を、床面に向けます。

③



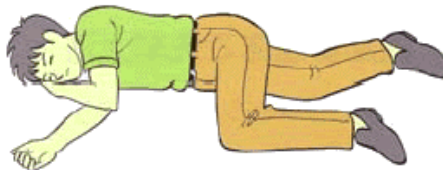
- 姿勢を安定させるため、上の足の膝を曲げて、腹部に引き寄せます。

④



- 傷病者の腰の位置に、膝を立てて座ります。
- 傷病者の手前の腕を開きます。

⑤ 回復体位



東京消防庁＜救急アドバイス＞＜倒れている人をみたら＞から引用作成